

織物を生かしたまちづくりについて（分科会のまとめ）

課 題	主なアイデア	今後の取組み
【1】 栃尾地域の人に織物のことを知ってもらい、地域の宝として誇りを感じてもらう	① 気軽に栃尾の織物に触れることができる場を設ける ② どのような製品に栃尾の生地が使われているのかを知ることができる機会を設ける ③ 「何でもできる」を一般の人にも分かりやすく伝える ④ 技術力をPRする	歴史ある栃尾の繊維産業を地域の宝の一つとして再認識し、まちづくりに生かして「織物のまち」として地域を盛り上げながら、産業としての活性化にもつながるよう、以下の取組みを中心に実施に向けて検討をすすめる。 なお、検討にあたっては、新たな活動団体の立ち上げも視野に入れながら、関係団体と協議を行う。
【2】 栃尾の織物の歴史を伝承する	① 織物に関する資料を整理・保存する ② トチオーレやおりなすを活用し、織物の歴史や現在の栃尾の織物に関する展示を常設する ③ 小・中・高校で織物について学習する機会を設ける	○ 大崎オヨと植村角左衛門の功績や栃尾の織物の歴史を、小中高校生をはじめとした栃尾地域の住民に伝えるため、資料の整理を行うとともに、地域内外の人にそれらを見てもらうための展示スペースを設ける。 関連課題：【2】①、② 関係団体：栃尾観光ガイドクラブ、とちおコミセン、おりなす（栃尾施設管理合同会社） ほか
【3】 「織物（繊維）のまち栃尾」を地域外にPRする	① 栃尾の生地を使った講座やコンテストの開催 ② ファッションショー ③ 染めの体験や工場見学を取り入れた観光コースの提案 ④ 織物をテーマにしたイベントの開催 ⑤ 気軽に製作体験ができる機器などを備えた施設の整備 ⑥ 長岡市内の企業や大学等と連携し、長岡ブランドの製品を企画・製造・販売する ⑦ 公共施設の見える部分に布を使用する ⑧ 生地の計り売り	○ 織物に触れる機会を増やすため、現在おりなすで行っている手織り講座に加え、より手頃な金額で体験できる講座を新たに企画する。また、おりなす1階の空きスペースに日常的に裂き織り体験ができるコーナーを設ける。 関連課題：【1】①、【3】①、③、⑤ 関係団体：おりなす（栃尾施設管理合同会社）、とちおコミセン ほか ○ 道の駅やおりなすを会場として、栃尾の生地やニット小物などを販売するイベントを開催する。また、販売スペースの常設を検討する。 関連課題：【1】②、【3】②、④、⑧ 関係団体：おりなす（栃尾施設管理合同会社）、栃尾織物工業協同組合、組合加盟企業 ほか
【4】 技術の継承	① 長岡造形大学や服飾専門学校などと連携し、人材育成を兼ねた製品開発（テキスタイルデザイン）を行う ② 若い人の力を生かす ③ 織る人を育てるプロジェクト	○ 栃尾織物工業協同組合や組合加盟企業などと引き続き情報共有を行い、技術の継承や人材育成、製品の差別化、広報戦略等における業界のニーズの把握につとめ、行政の支援につなげる。 関連課題：【1】③、④、【3】⑥、【4】①～③、【5】② 関係団体：栃尾織物工業協同組合、組合加盟企業 ほか
【5】 繊維産業のイメージアップ	① 若い人の意見を聞いたり、考えを話し合う機会を設ける ② SNSの活用などによる発信力の強化	関連課題：【1】③、④、【3】⑥、【4】①～③、【5】② 関係団体：栃尾織物工業協同組合、組合加盟企業 ほか